青雲の志

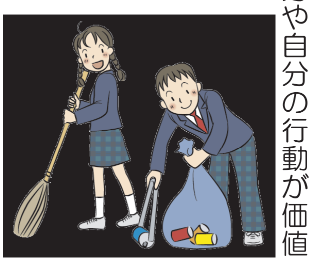
異学年交流（兄弟学級，縦割り班）で社会性を！！

兄弟学級とは?!

　文部科学省は、地域社会における人間関係の希薄化が進み、少子化に伴い、かつてのように多数の子供が異年齢集団を形成して、様々な経験をする機会が減少している現在、子供達に社会性や対人関係能力が十分身に付いていない状況であることを指摘しています。また、国立教育政策研究所生徒指導センターは、「学級や学年をこえた『かかわり合い』なしに、学級担任だけで『社会性の基礎（人とかかわりたいと思う気持ち）を育てるのは困難」で、「意図的、計画的な『異年齢交流』の実施が、社会性の育成につながる」と報告しています。

　そのような背景から、本校でも３年間を見通して、学校全体で清掃や行事等で異学年交流に取り組むことにしました。

　その取組により、上級生は、下級生の役に立つことで、「自己有用感（『自分は役に立った』『自分は頼りにされている』『みんなから認められている』という、自分や自分の行動が価値あるものと受け止められる感覚）を得て、社会性を向上できます。また、下級生も上級生とともに様々な経験をし、上級生からいろいろな刺激を受けることで、「理想の上級生像」を描き、今後に見通しを持つことができます。



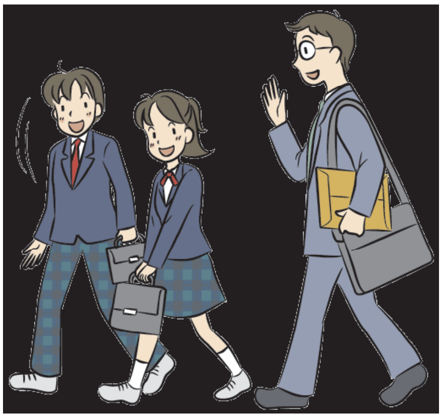
　そこで、４月11日(水)の、今年度最初の全体集会で、裏面のようなプレゼン資料をプロジェクターで投影し、生徒に説明しました。

４月の生活目標

　全体集会では、生徒会から４月の生活目標の発表もありました。

■みなさん、こんにちは。

　４月の生活目標は、「明るいあいさつを交わそう」です。現在、生徒会では、朝のあいさつ運動を行っています。元気よく、大きな声であいさつができている生徒もいますが、進んであいさつする生徒は、まだ少ないと思います。朝のあいさつから、１日が始まります。明るいあいさつが増えれば、生徒会が目標としている「明るい学校」に、一歩近づくと思います。



　生徒玄関、学年廊下へ生活目標のポスターを掲示します。朝のあいさつ運動も続けていきますので、明るいあいさつを進んでできるようにしましょう。

誰の似顔絵？

　右の似顔絵は、本校の美術の非常勤講師である「比嘉義亮（よしあき）先生が、描いてくれたものです。原画をお見せできないのが残念ですが、本当にそっくりですね!!　姿・風貌は、とても美術教諭には見えませんが、この似顔絵を見ると、「さすがは、美術の先生だ」と納得できますね。

　先生は、高江中学校、東中学校、有銘中学校との掛け持ちで、本校には、火曜日と木曜日に出勤します。

　これからの美術の時間や生徒の皆さんの作品の仕上がりが、とても楽しみになってきました。

　義亮先生や美術の時間を有効に活用して、コンクールにも積極的に挑戦してください。

現状と課題

① 異学年で対話をしたり，交流する場面は，部活動だけである。

② 行事では，3年生だけ？が盛り上がっている？上級学年が下級学年を指導する場面がない。

③ 学級対抗では,新入生歓迎球技大会の趣旨「新入生との親睦を図る」ことができない。

①

これから国頭中学校が目指すこと

① 今年度の目標「互いにかかわり，學び合い，伝え合う」　すべての人とのかかわりを大事に!!

② 一事徹底「いつでも，どこでも，誰とでも，眼と心で聴き合う関係をつくる」

③ 学級や学年を超えた『かかわり合い』なしに，『社会性の基礎』(人とかかわりたいと思う気持ち)は育たない。

②

異学年交流をすると

① 自尊感情 「やればできる!」「頼りにされているな」「次も頼むぞ!」「やって良かった!」

② 学ぶ意欲 「次はもっとうまく指導したい」「先輩のようになりたい」「伝統を引き継ぐんだ!」

③ 規範意識 「仲間を大切にしなければならない」「学校の名前に傷を付けられない」

③

今後予想される異学年交流

① 縦割り清掃　3年生がリードして，「黙動清掃」に取り組む。上級生が見本を示す。

② 新歓球技大会　兄弟学級でチームを編成し，3年生を中心に，作戦を練ったり，指導する。

③ 運動会・校内駅伝　兄弟学級対抗とし，3年生がリードし，種目練習や応援練習に取り組む。

④

その他の工夫とアイデア

① 定期テストに向けてのアドバイス　2年生代表が自分の経験を生かし，1年生にアドバイス

② 職場体験発表会　2年生一人一人が1年生にプレゼンする。

③ 修学旅行発表会　3年生一人一人が1･2年生にプレゼンする。

④ 小学生との交流　3年生を中心に企画･運営する。

⑤

期待される効果

① 3年生がリーダーとなり，上級生が下級生を繰り返し指導する機会が増え，共通の目標に向かってやり遂げる達成感を味わうことができ，下級生の役に立つ経験ができる。

② 中学校生活では常に下級生になってしまう1年生も，人の役に立つ経験ができる。

③ 全校生徒全員で，国中の新しい校風や文化をつくることができる。

⑥